

---

# 元彼たち

fuuukaaa

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

元彼たち

### 【Zコード】

N81410

### 【作者名】

fuuukaaa

### 【あらすじ】

ノンフィクションで今までの元彼たちの話を  
短編で書いています。

DV・ヤンキー・ヤクザ・ドラッグ・浮気、  
貴方の元彼は、どんな方でした・・・？

今のわたしは、とても幸せです

「とにかくまだにたゞつ着くの」「こんな元彼と出合つてました。

## D▼男 ～出会い～（前書き）

この物語は、全てノンフィクションです。

各 物語は、出会った順に描かれていません。

## D×男 → 出会い

元旦那と別れ

人を本気で好きになる事が出来なくなつて  
数年経つた頃・・・彼と出会いました。

27歳のトラックの運ちゃん

とても優しくて物知りでヨーモアな人  
性格は、タイプだつたけど

当時のうちじや、誰かに惹かれるなんてなかつた。

いつもみたく適当に付き合つて  
めんどくさくなれば切ればいいって思つてた。

彼は、既婚者の一児のパパ

知り合つた頃は、既に離婚の手続き最中  
うちと付き合つた頃には、離婚してた。

飲み会が好きな彼と飲み会が好きなうち  
逢う機会も多くなつて

彼のアプローチで適当に付き合つてたのに  
いつのまにか本気になつてた。

その頃は、まさか元旦那以外誰かをまた  
本気になれるなんて信じられなくて  
好きだつて自分で気づくのに時間がかかつた。

そうなれた自分を彼に感謝もしてた。

だから数年ぶりに本気の恋を出来たうちは、

彼を運命なんじゃないか・・・

うつと、彼で最後でもいいなって思つよつになつてた。

一緒に暮らし始めたのは、付き合ひて1ヶ月後。

共働きで平凡で幸せな毎日を過いでいた。

気づけば3ヶ月の時が流れ

それから彼は、どんどん変わつていつた。

まさか彼がこんなにも豹変するなんて思いもしなかつた・・・

・・・ねえ、何で変わつちやつたの・・・

## D▽男 → 豹変

6年勤めていた会社にクビだと言われ  
毎日ゲームとPCの睨めっこでは、家に引きこもる事が数ヶ月続  
いた。

それから言い合いをすれば

殴る、蹴る、引きづり、首を絞め、物も投げる。

そんな彼に嫌気をさし何度も別れを思つても  
情があつたうちには、離れる事が出来なかつた。

氣に食わなければ手をあげる

気持ちがあるうちには、弱み

ただひたすら我慢し、ただ毎日泣いて

彼が最初の頃に戻る事を信じじていたのかも・・・

氣づけば半年近く経ち

家の支払いは、全部うちが払いつつも

少ない給料では、持たず家賃滞納で家を出るハメになつた。

家を出ても次の家なんてないし

彼も変わらないまま何も考えもない

何も行動も起こさない

明日寝る場所さえも一緒に考えてくれない彼

いい加減そんな彼に呆れ

別々に荷物をまとめ別れを告げた。

彼は、あっさりと別れを認め

親切にうちの引越し先の寮に荷物まで運んでくれた。

それが間違いだつたのかも

ううん、出会つた事さえ間違いだと

その後起つた嫌がらせの事件で思つた。

## D▽男 → 嫌がらせ

夜の仕事をしていたうちは、  
店の寮を借りて一人で暮らし始めた。

4階建ての1階のアパート  
とても綺麗とも言えないが  
これから新しく前に進んだって  
彼からの呪縛から開放されたみたいで  
うちは、イキイキしてた。

不思議な事に

殴られてもずっと離れられなかつたうちが  
この時離れる事が出来て嬉しくてホッとしていた  
だから未練も情も消えていたんだ

彼からの連絡は、酔っ払つてる時以外ない  
もう切りたいと思つてたうちは、  
彼からのメールも電話も出なかつた。

だけど酔つた彼の連絡は、しつこく

時たま家の前に来ては、玄関のドアを叩くようになった。

週6働いて決まって朝方に帰る  
付き合つてた頃も同じ仕事場だつたから  
彼もわかつていたんだろう

日が経つにつれ酔つた彼が毎朝

家の前まで来て

ドアを叩く事が多くなつていた

”やり直そう”

”別れた覚えない”

”ドア開けてよ”

ドアを叩きながら彼は、玄関越しで話しかける

だんだんそんな彼の言動に恐怖を感じ  
自分の家なのに帰るのも嫌になつっていた

そんな続く中

仕事帰りに恐る恐る家に帰つてみると

玄関の外まで響く笑い声が…

玄関を開けるとそこには、彼と彼の男友達が  
酒を飲みながら楽しそうに笑つていた。

・・・なんていんの？・・・

彼は、ベランダのドアから入つてきたらしい  
戸締りは、いつも家を出る前に確認してゐ  
その日だつてベランダも閉まつてた

・・・なんで入れたの？・・・

ベランダの鍵は、完全に閉まつていなく  
押して引いたら開いたと言われた・・・

淡々と説明する彼

そこまでして入った彼の行動に言葉が出なかつた。

何か言いたい…

追い出したい…

でも言えない…

酒入ってる彼に何か言えば  
殴られる事 身体が覚えていたのだから彼らの笑い声を隣の部屋で  
震えながら聞く事しか出来なかつた

親や周りに軽く話した事は、あつた  
だけどうちの事で周りに迷惑かけたくない  
そんな性格なうちだから  
自分で解決しようと思つた

誰かに話して相談していたら

何か違つたかな…

毎日怯えなくすんだかな…

怖い… 彼が怖い…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8141o/>

---

元彼たち

2010年11月9日20時59分発行